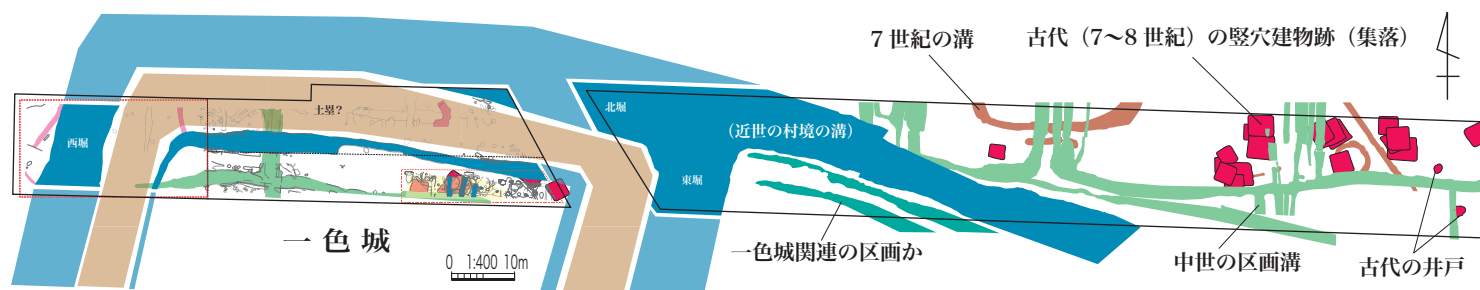
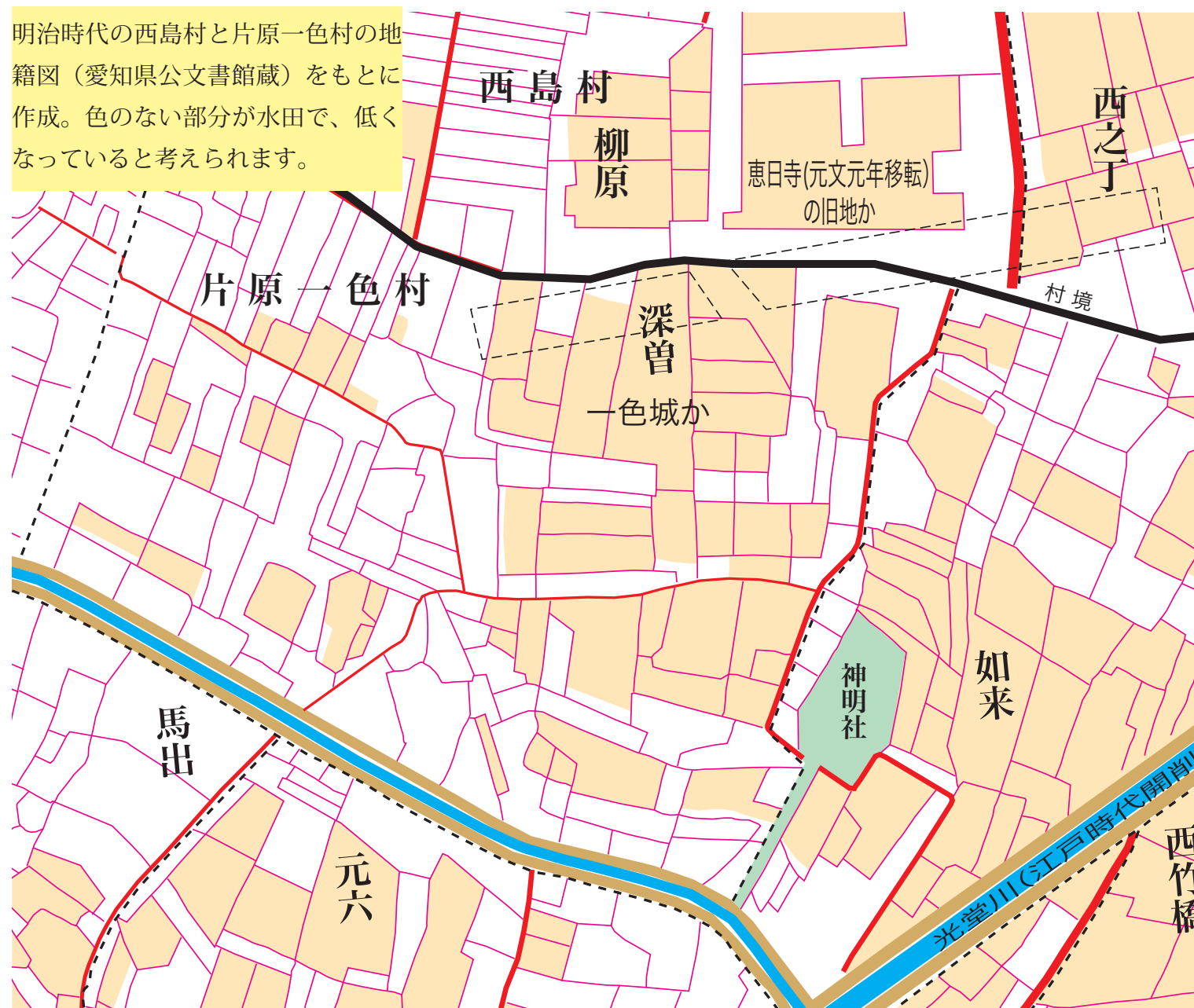


見えてきた一色城跡



これまでの発掘調査で、古墳時代から中世の集落があったことが明らかになっただけでなく、戦国時代の一色城跡が東西に1町（約109m）の規模であったことや、16世紀前半を中心とする陶器・土器、漆碗や折敷などの木製品、さらに茶臼が出土し、橋本一巴など城主の暮らしぶりをうかがい知ることができました。今後は出土遺物の検討を行い、その成果を発掘調査報告書にまとめる予定です。

明治時代の西島村と片原一色村の地籍図（愛知県公文書館蔵）をもとに作成。色のない部分が水田で、低くなっていると考えられます。



一色城跡の西堀 230SD
(調査区北壁での土層断面、帯状の砂は地震の噴砂)

愛知県稲沢市 一色城跡

地元説明会資料 令和3年(2021)2月20日(土)

調査主体：(公財) 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

調査支援：(株) イビソク



一色城跡の北西隅から
(土塁の内側をめぐる溝 056SD や、築城前の区画溝 176SD など)

発掘調査の概要

室町時代～戦国時代の遺構

令和2年度
発掘調査区

検出された堀の幅は約8.1m、
深さは約1.0mです。断面は
箱堀状となっています。

一色城の築城に際して、厚さ70cm以上の盛土造成
がなされていました。廃城後に削られており、調査
区内ではわずかに残っていました（黄色の範囲）。

一色城の築城前は、区画溝
が縦横にめぐらされた景観
でしたが、それを埋め立て
て城が築られました。

竪穴建物跡からは、7世紀（飛鳥時代）
の土師器や須恵器が出土しています。
かまどの跡は確認されませんでした。

赤色の枠内が本日ご覧いただける範囲です

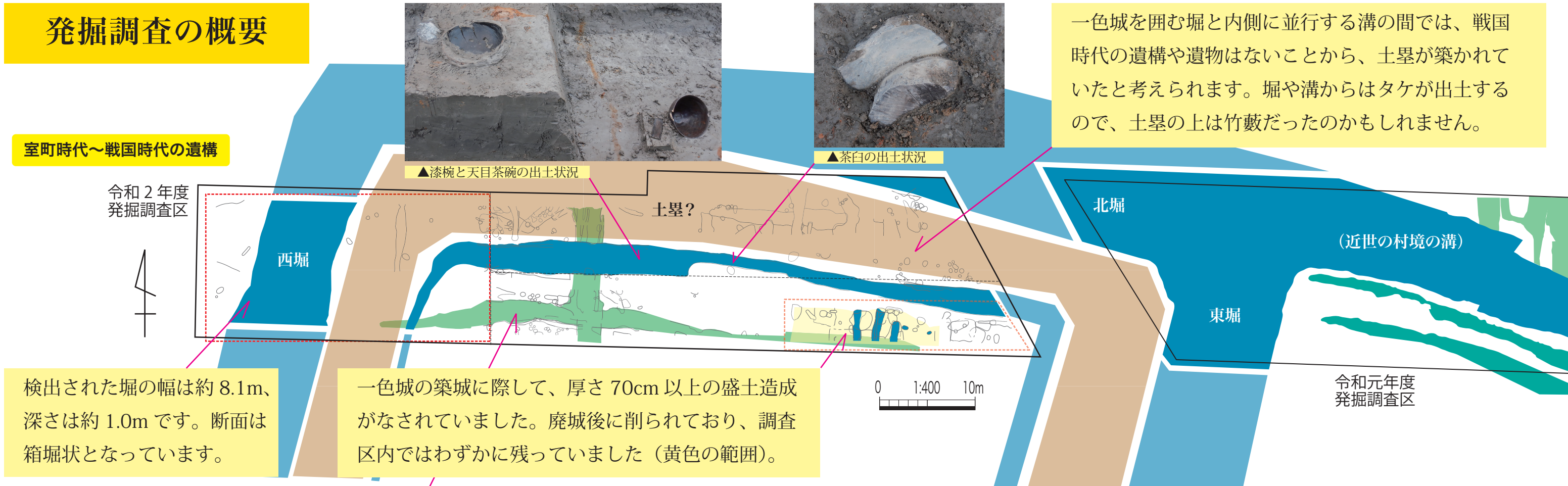
古墳時代～奈良時代の遺構

事業の概要

一色城跡では、県道給父稲沢線の改良工事にともない、
愛知県埋蔵文化財センターが令和元年度と同2年度
にわたって発掘調査を行っています。令和2年度の調査
面積は1,350㎡、期間は令和2年11月～令和3年2月（予定）です。

竪穴建物跡の床面からは、
それより古い時代（弥生
時代後期～古墳時代前期）
の周溝墓がみつかってい
ます。

一色城を囲む堀と内側に並行する溝の間では、戦国
時代の遺構や遺物はないことから、土塁が築かれて
いたと考えられます。堀や溝からはタケが出土する
ので、土塁の上は竹藪だったのかもしれません。



▲西堀の出土遺物



▲古代（7世紀）の竪穴建物跡群（A区北西から）



▲弥生時代～古墳時代前期の周溝墓群（A区北西から）